

新富町における高病原性 鳥インフルエンザの対応

鳥インフルエンザ対策本部長(新富町長) あいさつ

1月からの県内における高病原性鳥インフルエンザの発生は、口蹄疫からの復興を目指す新富町にとって、大きな衝撃となりました。

本町での発生農場は、鶏舎が密集する団地内で、41万羽が殺処分の対象となり、早期の作業終了が大きな課題となりました。

そのため口蹄疫の経験を活かし、直ちに交通規制、消毒体制、鳥や卵の移動自粛、埋却地確保等の初動体制をとりました。

また、県は本町役場内に現地対策本部を設置し自衛隊に災害派遣を要請しました。

役場内で県、警察、自衛隊との協議を重ねながら連携を密にし、さらに各団体や多くの方々のご理解とご協力により、防疫作業が進められ、早期に防疫措置を終了するこ

とができました。

特に、自衛隊指揮官の迅速的確な判断と対応、そして隊員一人ひとりのスピード感ある効率的な行動が大きな力となり、町内での感染拡大を食い止め、早期の終息へと繋げることができました。

防疫対策への深いご理解、ご協力と様々な防疫措置に携わられた皆様に心から感謝申し上げます。



民主党国会議員視察団に状況を説明し、国の支援等を強く要望する土屋町長



自衛隊災害派遣撤収式で自衛隊員へお礼の言葉を述べる土屋町長

昨年の口蹄疫から今回の鳥インフルエンザと困難が続いていますが、更に気を引き締め、防疫体制に万全を期し安全・安心な畜産業の再建に全力で取り組んでまいります。町民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成23年4月25日

新富町長 土屋良文